



帰国生への期待

先生と同級生、みんなであなただをサポート。

帰国生の潜在力は多様性として輝く

啓明学院は国際校を名乗ってはいませんが、帰国生が中学・高校合わせて約110名在籍しています。全校生徒の約1割になります。啓明学院の伝統を築いていく上でも、帰国生が大きな財産になると私たちは考えています。

帰国生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の高さ、異質なもののへの寛容さ、積極性を生む好奇心など、帰国生ならではの潜在的な力に期待しています。

帰国生の多様な体験や個性は、国内生にも大きな刺激を与えています。学校全体で、新しい学びへのチャレンジや学校文化の再構築に役立っています。

一人も見落とさないために

帰国生入試には校長による事前インタビューがあります。啓明学院と受験生本人、家庭の価値観を共有するために必要なもので、受験生の自己アピール、プレゼンテーションの場でもあります。本人の良いところを引き出そうとする面接で、振り落とすために行うものではありません。「人間は偏差値で測れるものではない」という学院の基本的な考え方が息づいています。

そのほか、基礎学力が定着しているか見るために国語・算数(数学・英語)のテストを行い、その生徒の学びや経験の固有性を知るために作文や英語面接を行います。本人の海外体験の質が問われるのです。



帰国生を中心としたアドバンスイングリッシュの授業。



英語を母国語とする先生とも毎日触れ合います。

啓明寮

「祈り」「自立」「共生」を胸に寮生活も充実。

自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい マタイによる福音書7:12

啓明寮の朝は午前7時の祈りと朝食から始まります。クラブ活動が終わって寮に帰ると、午後7時から夕食、入浴して、学習室に集まり自習。10時から晩祷のあと自室へ引き上げます。

親元を離れて、毎日のルールを含め自分たちで共同生活を作り上げていく寄宿舎。これも大切な教育の実践の場です。自立の心を育てながら、集団生活の中で自分を律していくことの大切さを知り、大きく成長していきます。

寮生たちは、最初は世話をされる立場ですが、1年後には上級生として世話をされる立場へ移行していきます。その過程で「愛」と「感謝」に目覚め、人を助ける喜びや弱い者を守る強い気持ちを育んでいきます。やがて後輩を導くリーダーとなり、他者を思いやる「心の力」を身につけていきます。

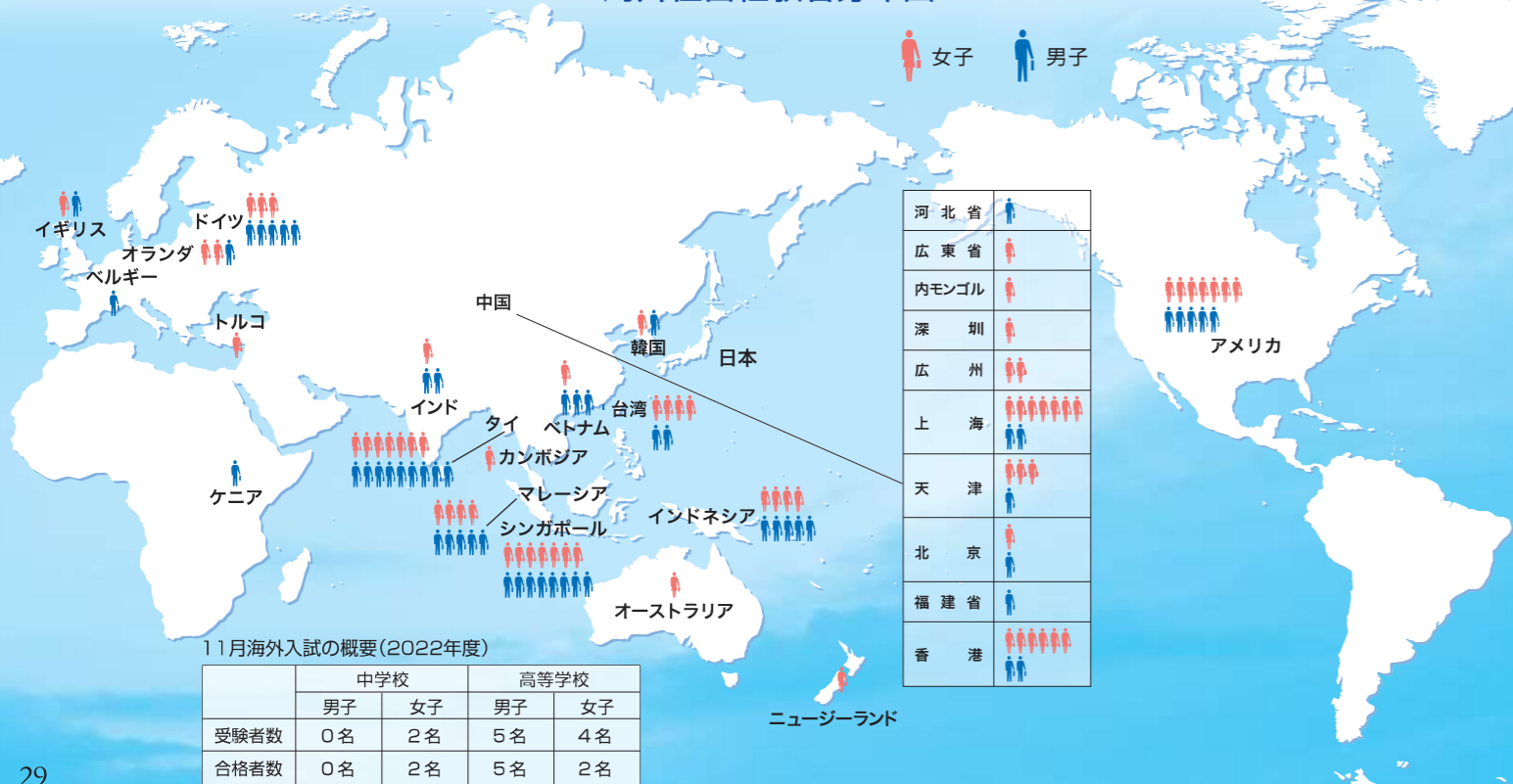


2012年の第1棟に続き、2014年に第2棟が完成しました。

寮生全員で誕生日のお祝いをしたり、花火を楽しんだり、小さな寮ならではの喜びや気配りも大家族のように味わっています。

全室個室で、どの部屋にもトイレと洗面所があります。自分自身での清掃・清潔が求められる、自己管理の大切さを学びます。帰国生だけでなく、啓明学院で学びたいと願う国内生の入寮も受け付けています。

海外在留経験者分布図



寮監を中心に助け合う寮生たち。



自室に帰っての学習は集中力が高まります。



「学習室での毎日の勉強が成績アップにつながった」という声も。



全室個室でどの部屋にもトイレがあります。掃除・整頓は各人の責任です。